

HIROSHIMA UNIVERSITY BHS NEWS

Hiroshima University Graduate School of Biomedical & Health Sciences

目次

Preface 巻頭言	
「医歯薬保健学研究科における 新しい教員グループの形成」	安井 弥 1
Greetings ご挨拶	
「就任のご挨拶」	桐本 光 2
「就任のご挨拶」	河口 浩之 2
Activities 新施設紹介	
「死因究明教育研究センターの 設置について」	長尾 正崇 3
My Motto 座右の銘	
「何が幸いするか...」	青山 裕彦 4
Research Frontline 研究最前線	
「染色体監視システムの解明 ー染色体治療法の開発に向けてー」	松浦 伸也 5
「研究内容紹介：救急集中治療医学」	志馬 伸朗 6
Excellent Paper すぐれた論文	
「右心室以外の心臓を構成する 細胞へ分化する前駆細胞を発見」	小久保博樹 7
Air Mail 広大から海外へ留学していた若手からの便り	
「南カリフォルニア大学(USC)留学便り」	玉井 俊樹 8
編集後記	上田 宏 8

医歯薬保健学研究科における新しい教員グループの形成

大学院医歯薬保健学研究科長 安井 弥



医歯薬保健学研究院・研究科が発足した平成24年から5年間にわたり、研究院では基礎生命科学、応用生命科学、統合健康科学の3部門を置き、共同研究、留学支援、InterProfessional Education (IPE)の推進を目的に、公開セミナー、留学生による研究発表会、IPE合同講義等を行ない大きな成果を上げてきました。また、グローバル化の中で、国際的教育、国際協働の推進も重要な課題です。これらを背景に、研究科では新しい活動組織として、2つの委員会と5つのグループからなる学際的研究推進部会を設置しました。融合教育と国際協働の推進については、「融合教育推進委員会」が、IPEの企画、継続、改善、発展を図り、分野を超えた学部教育での連携基盤の整備も担います。「国際教育・協働委員会」は、霞地区全体を視野に入れた海外協定校との連携、病院領域を含む分野横断的な国際的な教育・研究プログラム等、国際的視野によるグローバル教育・研究の促進、研究者の国際活動支援の活動基盤の整備、等を担当します。一方、「学際的研究推進部会(Interdisciplinary Research Section)」は、「がん・ゲノム医療」、「脳・神経科学」、「再生・免疫・感染・アレルギー」、「老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学」及び「発生・発達・成長期医療」の5つのグループから構成され、新たな研究展開と社会実装を推進する研究活動の基盤整備を担い、学際的研究の推進、協業的研究への発展を目指すものです。研究科の基幹講座、協力講座(原爆放射線医学研究所、病院、自然科学研究支援開発センター)、寄附講座および共同研究講座の教員が対象であり、教授はいずれかのグループに属するものとしています。学際的研究推進部会はそれぞれのグループで独自の活動を行いますが、1年に数回は情報共有のための合同会議を開催し、適宜URAにも参加していただきます。これらの組織・活動が有機的に機能し、研究力、国際力、社会との連携の飛躍的強化に直結することを願っています。

現在、全学では、新しい平和科学、すなわち「持続可能な発展を導く科学」の創生と、多様性を育む自由で平和な国際社会の構築に貢献する人材の育成を目指して大学院の再編が検討されています。特に東広島生命科学系と本研究科には共通する部分も多く、これを機に当該領域の全学的協働が促進されることを期待しています。

本年度末に私が研究科長の任期満了を迎えることから、11月には次期研究科長の選考が行われ、大段秀樹教授に決定しました。100年後も光り輝く広島大学に向けて、引き続きご協力をお願いいたします。

